

第18回 令和元年度 遺跡調査報告会

2019年11月9日 土

午後2:00～4:00

展示・報告遺跡

- ◆ いちおうじ 一王寺遺跡 (八戸市是川 縄文) 横山 寛剛
 - ◆ まつがさき 松ヶ崎遺跡 (八戸市十日市 縄文・奈良) 宇庭 瑞穂
 - ◆ にいだじょうあと 新田城跡 (八戸市新井田 中世・近世) 上ノ山 拓己
- 【特別報告】
- ◆ いのはな 猪ノ鼻(1)遺跡 (七戸町猪ノ鼻 縄文・古墳・平安) 木村 高



現地説明会のようす(一王寺遺跡)



現地説明会のようす(新田城跡)



八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1
TEL 0178-38-9511 FAX 0178-96-5392
<https://korekawa-jomon.jp/>

◆会場：是川縄文館 体験交流室

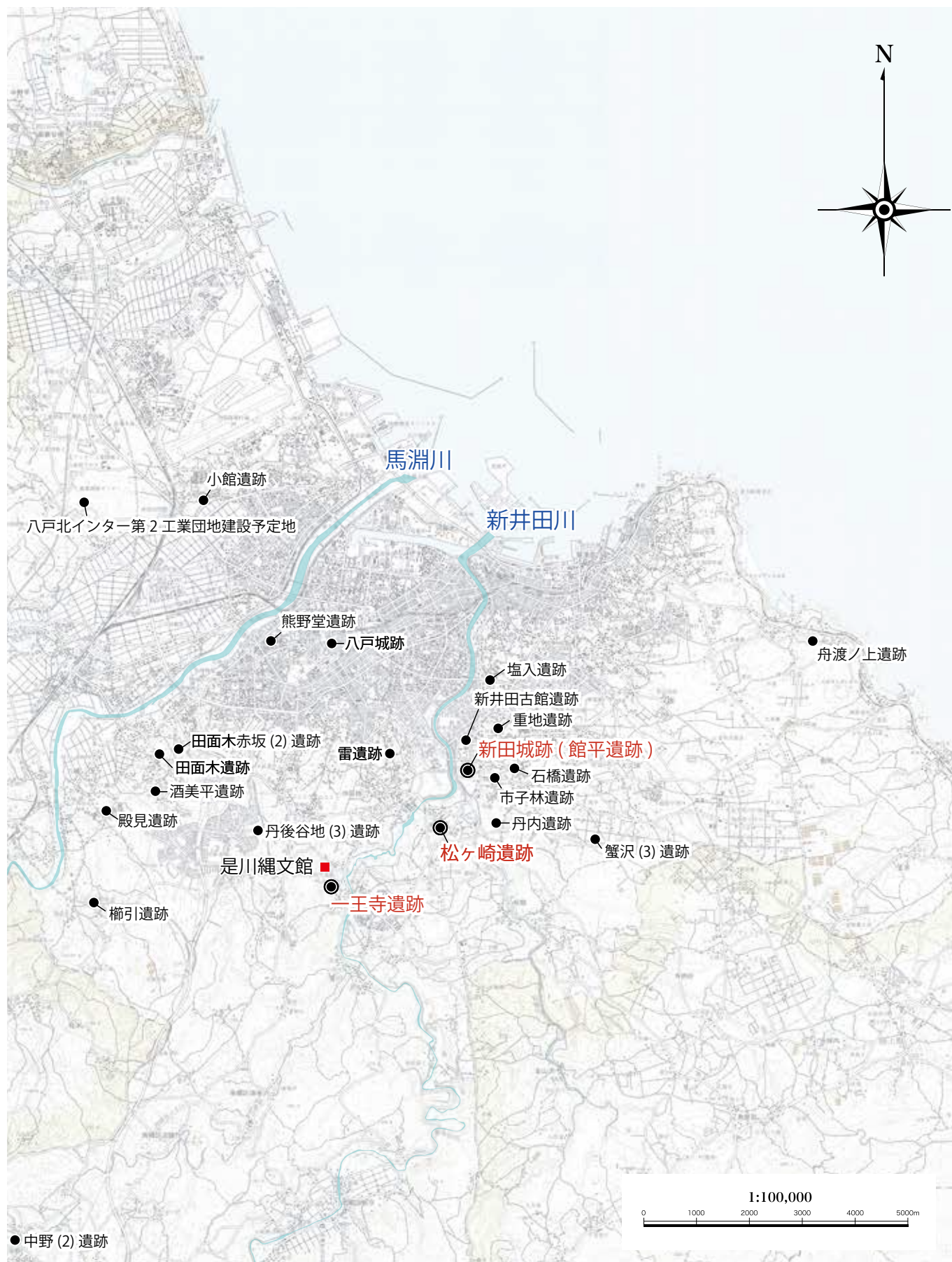
◆主催：八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

令和元年度発掘調査遺跡一覧

	No	遺跡名	時代／種類	所在地	調査原因	調査面積	調査期間
試掘調査	1	市子林遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡	妙	個人住宅建築	5.0	平成 31 年 4 月 9 日
	2	田面木遺跡①	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	6.0	平成 31 年 4 月 10 日
	3	雷遺跡 (第 8 地点)	縄文・平安／散布地	田向	範囲確認調査	150.0	平成 31 年 4 月 15 日～ 17 日
	4	櫛引遺跡遺跡 (第 10 地点)	文・奈良・平安・集落跡・城館跡 中世・近世／集落跡・城館跡	櫛引	太陽光発電施設設置	60.0	平成 31 年 4 月 18 日
	5	櫛引遺跡遺跡 (第 11 地点)	文・奈良・平安・集落跡・城館跡 中世・近世／集落跡・城館跡	櫛引	太陽光発電施設設置	38.0	平成 31 年 4 月 18 日
	6	重地遺跡	縄文／集落跡	新井田	個人住宅建築	19.2	平成 31 年 4 月 22 日
	7	丹内遺跡第 1 地点	縄文・奈良・平安／集落跡	妙	太陽光発電施設設置	100.0	平成 31 年 4 月 24 日～ 令和元年 5 月 8 日
	8	松ヶ崎遺跡①	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	十日市	個人住宅建築	20.0	令和元年 5 月 8～9 日
	9	田面木遺跡 (第 51～54 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	建売住宅建築	27.5	令和元年 5 月 20～22 日
	10	松ヶ崎遺跡②	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	十日市	個人住宅建築	8.0	令和元年 6 月 4 日
	11	小館遺跡	中世／城館跡	河原木	太陽光発電施設設置	23.0	令和元年 7 月 1～3 日
	12	塩入遺跡	縄文・平安／散布地	新井田	事務所建設	20.0	令和元年 7 月 2 日
	13	舟渡／上遺跡	縄文／散布地	鮫町	太陽光発電施設設置	9.0	令和元年 7 月 5～7 日
	14	田面木遺跡 (第 55 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	20.0	令和元年 7 月 9・10 日
	15	丹後谷地 (3) 遺跡	縄文・平安／散布地	根城	太陽光発電施設設置	30.0	令和元年 7 月 10 日
	16	蟹沢 (3) 遺跡	縄文／散布地	妙	太陽光発電施設設置	7.0	令和元年 7 月 10 日
	17	石橋遺跡①	平安／集落跡	新井田	個人住宅建築	8.0	令和元年 7 月 12 日
	18	石橋遺跡②	平安／集落跡	新井田	個人住宅建築	4.0	令和元年 8 月 8 日
	19	田面木赤坂 (2) 遺跡	縄文・平安／散布地	田面木	太陽光発電施設設置	24.0	令和元年 9 月 12～20 日
	20	石橋遺跡③	平安／集落跡	新井田	建売住宅建築	23.5	令和元年 9 月 20 日
	21	雷遺跡第 10 地点	縄文・平安／散布地	田向	個人住宅建築	21.3	令和元年 9 月 25 日
	22	田面木遺跡②	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	5.0	令和元年 10 月 3 日
	23	八戸北インター第 2 工業団地建設予定地	—	尻内	工業団地建設	—	令和元年 10 月 17 日～現在調査中
	24	新井田古館遺跡	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	新井田	個人住宅建築	23.0	令和元年 10 月 24 日～29 日
確認調査	25	一王寺遺跡	縄文・弥生・奈良・平安・近世／集落跡	是川	史跡内容確認調査	400.0	令和元年 7 月 4 日～9 月 10 日
	26	新田城跡 (館平遺跡)	縄文・平安・中世／集落跡・城館跡	新井田	内容確認調査	400.0	令和元年 6 月 25 日～7 月 31 日
本発掘調査	27	中野 (2) 遺跡 (第 1 地点)	平安／散布地	南郷	個人住宅建築	54.0	平成 31 年 4 月 3 日～12 日
	28	館平遺跡 (第 31 地点)	縄文・平安・中世／集落跡・城館跡	新井田	個人住宅建築	89.0	平成 31 年 4 月 3 日～12 日
	29	田面木遺跡 (第 50 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	長芋作付	2,000.0	令和元年 5 月 15 日～6 月 28 日
	30	松ヶ崎遺跡 (第 11 地点)	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	十日市	長芋作付	2,250.0	令和元年 5 月 7 日～6 月 28 日
	31	雷遺跡 (第 8 地点)	縄文・平安／散布地	田向	個人住宅建築	235.0	令和元年 6 月 5 日～17 日
	32	田面木遺跡 (第 51 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	15.0	令和元年 7 月 16 日～8 月 9 日
	33	田面木遺跡 (第 52 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	60.0	令和元年 7 月 16 日～8 月 9 日
	34	田面木遺跡 (第 53 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	51.0	令和元年 7 月 16 日～8 月 9 日
	35	田面木遺跡 (第 55 地点)	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	30.0	令和元年 7 月 10・11 日
	36	雷遺跡 (第 9 地点)	縄文・平安／散布地	田向	個人住宅建築	44.0	令和元年 7 月 10・11 日
	37	石橋遺跡 (第 12 地点)	平安／集落跡	新井田	長芋作付け	2230.0	令和元年 7 月 29 日～10 月 17 日
	38	八戸城跡 (第 43 地点)	縄文・弥生・古墳・近世・近代／城館跡	内丸	歩道改良	155.0	令和元年 9 月 2 日～10 月 18 日
	39	雷遺跡 (第 10 地点)	縄文・平安／散布地	田向	個人住宅建築	35.0	令和元年 10 月 10 日～25 日
	40	酒美平遺跡 (第 19 地点)	縄文・飛鳥・奈良・平安／集落跡	田面木	福祉施設建築	—	令和元年 10 月 7 日～現在調査中
	41	熊野堂遺跡 (第 7 地点)	縄文・奈良・平安／集落跡	売市	地中送電線埋設	—	令和元年 10 月 21 日～現在調査中

報告遺跡

※ 10 月末日現在



令和元年度発掘調査遺跡位置図

1. 遺跡の概要

本遺跡には、今から約 5,900 年～ 4,300 年前の縄文時代前期から中期の円筒土器文化期を中心とした大きな集落（ムラ）が広がっています。昭和 32(1957) 年に中居遺跡・堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されました。

遺跡は、32 万 6 千㎡の大きさがあり、新井田川に面する標高 20 ～ 40 m の台地と、標高 100m 前後の丘陵に立地しています。台地上のゆるやかな斜面には、竪穴建物や捨て場が広がり、遺跡南側の沢には捨て場がつくられています。祈りや弔いの場として利用された背後の丘陵には、集石遺構や土坑墓などが残されています。

八戸市教育委員会では平成 6 年から 29 年まで、断続的に調査を行ってきました。これまでの調査は、遺跡の範囲を確認することが主な目的であり、調査面積は遺跡全体の約 2 % にとどまります。また、特に重要な史跡の範囲内においても、大正から昭和初期の発掘を除き、平成 26・28 年の約 660 ㎡しか調査を行っていません。

このように、現状で遺跡の全容はほんの一部しかつかめていない状況です。このため、今年度から令和 6 (2024) 年度まで 6 カ年の予定で、史跡指定地を中心に内容確認のための発掘調査を行うこととなりました。今年度の調査区は八戸市大字是川字一王寺 1,2-2,2-3,2-5 に所在し、調査期間は令和元年 7 月 4 日～ 9 月 10 日までの約 2 ヶ月間、調査面積は約 400 ㎡です。

2. 検出遺構

今回の調査では、縄文時代の竪穴建物跡 13 棟・フラスコ状土坑 7 基・集石遺構 2 基・貝塚 1 箇所・遺物包含層、古代の竪穴建物跡 2 棟、時期不明の土坑 6 基を検出しました。

このうち、縄文時代中期後半（今から約 4,500 年～ 4,000 年前）の竪穴建物跡とフラスコ状土坑（貯蔵穴）が最も多く検出されました。また、前期中頃の竪穴建物跡が 1 棟みついています。貝塚は、平成 26・28 年度に調査したものと一連のものとみられ、前期中頃～後半（約 5,900 年～ 5,500 年前）に属します。集石遺構は、5 ～ 50cm の大小様々な自然礫を並べたもので、後期初めから前半（約 4,000 年～ 3,700 年前）の土器と一緒に出土しています。

3. 出土遺物

縄文土器（早期・前期・中期・後期・晩期）を中心に、弥生土器（前期）、続縄文土器、土師器（奈良・平安時代）、土製品（土偶・土製耳飾り・キノコ形土製品・ミニチュア土器・円盤状土製品）、剥片石器（石鏃・石槍・石匙・石篋・石錐など）、礫石器（磨製石斧・磨石・石皿・台石・扁平石器など）、骨角器（釣針・銚頭未成品）、動物遺存体（ニホンジカ・サメの歯など）などが出土しました。

4. まとめ

今年度の主な調査成果として、以下の 3 つがあげられます。

- ・平成 26・28 年度に調査した前期の貝塚が、さらに遺跡の南側へ広がる。
- ・中期後半の遺構・遺物が最も多く検出されたことから、この時期に本遺跡の集落（ムラ）が最も大きくなった。
- ・中期後半の集落がなくなった後、後期初めから前半になると生活の場から祈りや祀る場へ変わる。

（横山 寛剛）

1. 遺跡の概要

本遺跡は、八戸市中心部から南東約 4km に位置する、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高 27 ～ 45m の台地上に立地しています。これまでの調査により縄文時代前・中期の遺構が多数みつっており、中でも縄文時代中期後葉を中心とした大規模な集落跡であることが判明しています。

今年度に発掘調査を行った第 11 地点は、遺跡のほぼ中心に位置しています。今年度から 6 年かけて調査を行う予定です。今回はそのうち北東側約 2,200 m²を対象に調査を行いました。

2. 検出遺構

今回の調査では、以下の遺構を検出しました。

【縄文時代】 竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、屋外炉

【古 代】 竪穴建物跡、土坑、ピット群

【時期不明】 土坑墓群、ピット群、溝状遺構、性格不明遺構

調査区は西から東に傾斜した地形です。北側では縄文時代中期の竪穴建物跡がみつかり、南東側では時期不明の長方形の土坑が 9 基まとまってみつかりました。これらの土坑は形状から墓と考えられます。南西側では縄文時代の掘立柱建物跡や古代の竪穴建物跡がみつかりました。

縄文時代の掘立柱建物跡は 1 間約 3.5m、柱穴の直径 0.9m、深さ約 1.0m で、これまでの調査でみつかった中で最も大きな掘立柱建物跡です。柱穴の一つからは柱痕が確認されており、丸型の柱を使ったと推測されます。

古代の竪穴建物跡は、一辺約 9m と市内では大型の部類に入る規模です。床面から焼土と多量の炭化材がみつかったことから、焼失した家屋と考えられます。また、南側壁際の床面から完形の縄文土器 1 個体が見つかりました。古代の人がこの家を建てる際に、縄文時代の遺構を壊すなどして入手したと考えられ、その当時珍重されたものと推測されます。

3. 出土遺物

今回の調査では縄文土器、土師器、石器、石製品などが出土しました。特に多かったのは縄文時代中期の土器で、その多くは調査区北西から集中して出土しています。

古代の竪穴建物跡からは奈良時代の土師器 3 点が出土しました。また覆土の上層から、縄文時代の石製耳飾りも出土しています。

4. まとめ

今回の調査地点はこれまでの調査結果と併せてみると、縄文時代中期後葉の集落の端部分にあたると考えられます。台地の平坦部から斜面へと切り替わるちょうど境目までに集落範囲が広がると考えられます。今回みつかった土坑墓からは遺物が出土しなかったため、時期の断定はできませんでした。しかし、遺構の配置などからみると、縄文時代のものと推測されます。

本遺跡では、これまで遺跡の北側を中心に調査が行われてきましたが、その際に古代の遺構はあまりみつかっていません。今回の調査では古代の遺構は南側にやや偏^{かたよ}ってみつかることから、遺跡の南側に古代の集落跡が広がる可能性があります。

(宇庭 瑞穂)



古代の竪穴建物跡（南西から）



時期不明の土坑墓群（西から）

1. 遺跡の概要

新田城跡は、八戸市の中心街から約 3.5km 南東の、新井田川と松館川の合流点の東岸、標高約 37m の丘の上に立地しています。城主は、根城南部(八戸)氏の一族である新田氏と伝えられています。城の中心部である本丸(主曲輪)は、東西約 200m、南北約 150m で、約 15,000 m²の広さがあり、現在は新田八幡宮の境内などになっています。

過去の発掘調査で 15 ～ 16 世紀にかけての陶磁器が出土していることから、この頃には城に関わる人が活動していたとみられます。廃城の時期は、最後の城主の新田義実が遠野へ移った寛永 4(1627)年とされています。また、廃城後、明和 3(1766)年に八戸藩 5 代藩主の南部信興が城跡に隠居所を建てたという記録があります。いずれにしても新田城の実態はよくわかりません。

八戸市では、新田城の本丸部分の内容を確認するため、昨年度から 3 年間の計画で調査を行っており、初年度は、倉庫とみられる掘立柱建物跡や鍛冶遺構、井戸跡、堀跡の溝などを確認しました。今年度は、本丸のうち北側の約 5,000 m²を対象に調査を行いました。

2. 検出遺構

今回の調査では、主に戦国時代から江戸時代と考えられる掘立柱建物の柱穴や土坑・堀跡、平安時代の竪穴建物跡、縄文時代の土坑などを確認しました。また、調査区全体が盛土されており、特に北西部では他の場所よりもかなり厚いことがわかりました。盛土から 15 ～ 16 世紀ごろの陶磁器が出土することから、盛土は城の造成に伴うと考えられます。一方で、調査区の北東部からは切土した痕が 3 か所確認され、切土面のすぐ上の層から 16 世紀ごろの陶磁器が出土しました。また、昨年度の調査で確認した堀跡が北に続くとともに、堀を埋めて強く叩き締めた場所が部分的に確認されました。

このほか、18 ～ 19 世紀ごろの陶磁器を含む盛土の層がある場所もみつき、廃城になった後も、何らかの目的を持った工事が行われていたと考えられます。

3. 出土遺物

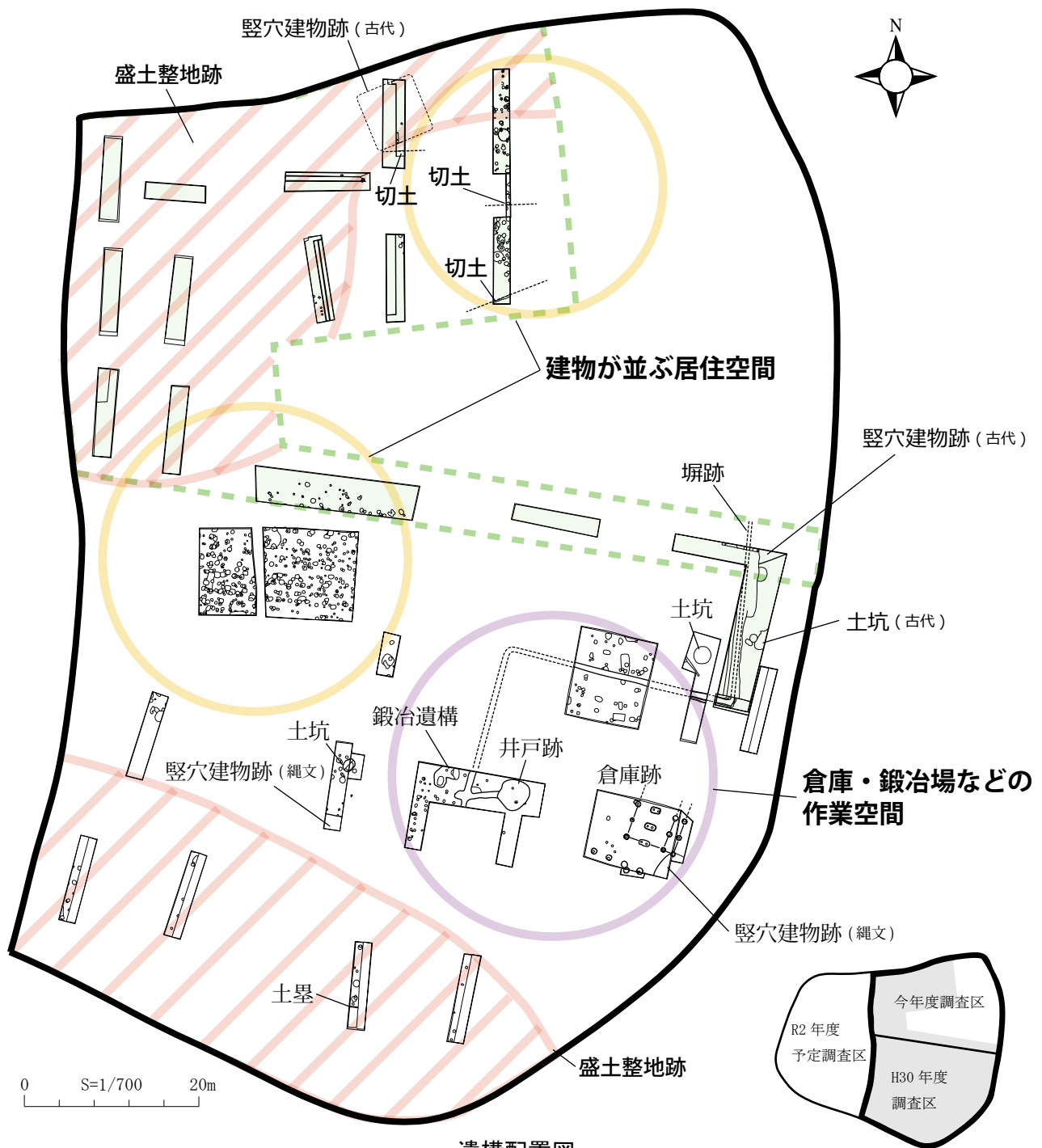
今回の調査では、縄文土器・土師器・陶磁器・土製品・石器・鉄製品・銭貨(寛永通寶(新))などが出土しました。このうち、新田城が存在していたと考えられる時期の陶磁器は、15 世紀末から 17 世紀にかけてのものが出土しており、昨年度出土したものとほぼ同じ時期です。産地は、瀬戸・美濃焼などの国産だけでなく、中国産のものもあります。さらに、茶臼や建水といった茶道具も出土していることから、新田城には茶の湯の心得のある人物がいたと考えられます。

4. まとめ

今年度の調査では、本丸北側で大規模な盛土や切土が確認され、一緒に出土した陶磁器から戦国時代ごろに城の工事が行われたと考えられます。盛土が特に厚くなる場所があることから、築城前は沢のように落ち込んだ場所があり、それを盛土で埋めた可能性が考えられます。また、切土の位置から、本丸の北側斜面は 3 ～ 4 段の階段状の構造になっていた可能性があります。

このほか、施設が本丸の中央部と北東部、南東部に集まっていることを確認しました。中心部や北東部は掘立柱建物がある居住空間、南東部は倉庫や鍛冶場などがある作業空間と考えられ、本丸の空間の使い方が少しずつみえてきました。そして、堀を埋めたて、強く叩き締めている場所があることから、本丸の空間利用にある程度の変遷があったと考えられます。

(上ノ山 拓己)



新田城本丸跡（北から）



盛土の層（南から）

【特別報告】 ^{い の はな}猪ノ鼻 (1) 遺跡(七戸町戸町)

1. 遺跡の概要

青森県埋蔵文化財調査センターでは、一般国道 45 号天間林道路建設事業の実施に先立ち、猪ノ鼻 (1) 遺跡の発掘調査を行いました。発掘調査は昨年度に 2 ヶ月間行い、今年度は 4 月 23 日から 10 月 31 日まで行いました。

遺跡は、東北新幹線七戸十和田駅から北東約 4.4km の地点にあり、小川原湖に注ぐ坪川の中流域、標高約 19 ～ 20m の台地縁辺に立地しています。

調査の結果、縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代・鎌倉～室町時代・江戸時代の遺構、遺物がたくさん見つかっています。

2. 古墳時代の猪ノ鼻 (1) 遺跡について

①古墳時代の日本ー古墳文化と続縄文文化ー

前方後円墳などの古墳がたくさんつくられた 3 世紀後半から 6 世紀末頃までを古墳時代と呼びます。しかし、前方後円墳がつくられた地域は、九州南部から東北南部までで、東北北部と北海道は、前方後円墳がつかられない地域 (ヤマト政権の力が及ばない範囲) でした。つまり、東北北部と北海道は、「古墳文化」の圏外だったのです。

この頃、北日本には「古墳文化」とは異なる文化がありました。「^{ぞく}続縄文文化」です。「続縄文文化」とは、弥生時代になっても稲作を行わず、縄文文化のように漁労・狩猟などを基盤にした文化で、その中心地は北海道でした。

②検出遺構と出土遺物

古墳時代、本遺跡は「墓地」でした。みつかったお墓は全部で 6 基で、時期は古墳時代前期 (3 世紀後半～4 世紀：約 1,700 年前) と考えられます。これらはいずれも地面を楕円形に掘り下げた「^{どこうぼ}土坑墓」と呼ばれる墓穴ですが、続縄文文化に特有な「柱穴状ピット」が伴うものと、それが伴わないものの 2 種類あることが分かりました。

「柱穴状ピット」が伴うお墓は 4 基で、続縄文土器 (^{こうぼく}後北 C2・D 式の注口土器・^{ちゅうこう}小型深鉢・小型台付鉢など) や、古式土師器 (^{こしき は し き}二重口縁壺)・鉄製品 (^{とうす}刀子など)・玉 (ガラス製) などが出土しました。「柱穴状ピット」が伴わないお墓は 2 基みつき、古式土師器 (高坏・鉢など) や玉 (^{へきぎよく}碧玉製管玉・^{くだたま}緑色凝灰岩製管玉・^{うもれぎ}埋木製もしくは碧玉製 ^{へきぎよく}棗玉・^{なつめだま}コハク製丸玉) などが出土しました。これら 6 基のお墓を全体で見わたすと、北の続縄文文化の要素 (柱穴状ピット・続縄文土器) と南の古墳文化の要素 (古式土師器・鉄製品・玉類) が複雑に入り交じっていることが分かります。

3. まとめ

東北北部における古墳時代の発掘例はとても少なく、当時の人々の社会については、まだ分からないことばかりです。今回のこの発見は、続縄文文化系の人々と古墳文化系の人々がどのような関係にあったのか、この猪ノ鼻 (1) 遺跡でどのような“出会い”があったのかなど、様々なことを考える上でとても重要です。今後は、1993 年に国立歴史民俗博物館が調査を行った森ヶ沢遺跡 (猪ノ鼻 (1) 遺跡の西方約 1.5Km の地点にあり、5 世紀中頃の続縄文文化の土坑墓で著名) との比較検討も重要課題になります。

(木村 高)



第7号土坑 [土坑墓] 完掘
(2個一対の柱穴状ピットが伴っています)



第47号土坑 [土坑墓] 続縄文土器出土状況
(古墳時代前期:後北C2・D式)



第4号土坑 [土坑墓] 古式土師器・玉類出土状況
(柱穴状ピットは伴っていません)



古式土師器 (古墳時代前期:第4号土坑 [土坑墓] と
第55号土坑 [土坑墓] から出土した破片が接合)



各種玉類 (古墳時代前期:第4号土坑 [土坑墓] 出土)



猪ノ鼻(1)遺跡位置図

※青森県遺跡地図を縮小、加筆

第18回 八戸市遺跡調査報告会次第

- 13:00 出土品展示室開場
- 13:30 報告会受付開始
- 14:00 開会挨拶
- 14:05 令和元年度調査概要
- 14:15 調査成果報告 一王寺遺跡
- 14:35 調査成果報告 松ヶ崎遺跡
- 14:55 10分休憩
- 15:05 調査成果報告 新田城跡
- 15:25 【特別報告】 猪ノ鼻(1)遺跡
- 15:45 質疑応答
- 16:00 閉会挨拶
- 閉場(出土品展示室は16:30まで)

